



犯罪被害者に対する支援の現状と課題を語る木村理事長

ーの木村邦弘理事長らが講演した。

木村理事長

援助センター」は13日、札幌市内で支援の現状と課題を考えるシンポジウムを開いた。2014年に殺人事件で長男を失い、加害者は心神喪失で不起訴となった同センタ

のほか、北海道大学病院付属司法精神医療センターの賀古勇輝センター長らが講演し、約40人が参加した。木村理事長は、札幌市で今年4月に犯罪被害者

等支援条例が施行されたことなどに触れ、「（被害者への支援が不十分という）問題の解決に向けて変化の流れは来ている。被害者と加害者の共生社会に向け、対立ではなく相互理解が重要になる」と述べた。

心神喪失者を治療する賀古センター長は、患者の多くが統合失調症を抱え、被害者は母親などの家族が約半数に上ると紹介。被害者に対しては、情報開示や給付金制度の

周知といった支援が不足していると指摘した。

（吉川幸佑）